

日本ハム vs 楽天
公式戦 特別協賛

2022プロ野球パシフィック・リーグ公式試合「北海道日本ハムファイターズー東北楽天ゴールデンイーグルス」が13、14の両日、静岡県駿河区の県営草薙球場で開催されます。特別協賛するリツアンSTC(掛川市)はエンジニアの人材派遣事業を展開、「ハケン」を1つの手段に日本の雇用問題を解決することをミッションに掲げています。同社の協賛への思いや事業内容、今後の事業展開について、同社の野中久彰社長(44)と静岡新聞社・静岡放送の大須賀紳晃社長が「BIGBOSS対談」を行いました。(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)

地域発 日本の 雇用問題 解決へ



リツアンSTC 代表取締役 社長 野中 久彰氏 × 静岡新聞社・静岡放送 社長 大須賀 紳晃
RSTC リツアンSTC



エンジニアの方々と野中社長が談笑(2019年夏ごろ、リツアンSTC提供)



静岡新聞社・静岡放送 社長 大須賀紳晃

障がい者と共に 生きる社会を



野中久彰(のなか くにあき) リツアンSTC代表取締役社長。1978年生まれ、掛川市出身。エンジニア系の派遣会社(営業職)を経て、2007年9月、リツアンSTCを創業。モットーは「三方よし」「利益を社会に還元する」。趣味は野球、飲み歩き。

大須賀 このたび「2022プロ野球 パ・リーグ公式戦、北海道日本ハムファイターズ対東北楽天イーグルス」の特別協賛をいただきました。エンジニアに特化した人材派遣事業を行う御社が、特別協賛に至った志をお聞かせください。

野中 当社名の「リツアン」は、アイデアを生む「立案」が語源です。人材派遣事業だけでなく、設計の委託などの請負業も事業としてやらせていただいておりますが、日本の雇用問題にも立案していきたいと考えています。例えば、障がい者の社会参加が叫ばれていますが、まだ整備されていないのが現状です。そこで3年前、障がい者雇用の一環として、掛川市で駄菓子屋を開きました。店長の横山ご夫妻は共に車いすユーザーの方です。彼の「障がい者をもっと外に出て、社会で皆と共に生きるべきだ」という熱意に共感しました。障がいがある人たちがどんどん呼べるスポーツ大会を作ろう、そんな思いで今回協賛しました。

昨年特別協賛させていただきましたが、オープニングセレモニーでの両監督への花束贈呈では、その店長ご夫妻にご登壇いただきました。それがとても好評で、駄菓子屋に来てくれる子どもたちやその親御さんからも「見たよ」と声を掛けてもらえたみたいで、特別協賛させていただいて大変良かったなと思います。

大須賀 さて、御社は「仲介手数料の少ない技術系人材派遣会社」として注目を集めています。

野中 私は以前、大手の人材派遣会社に勤務していましたが、派遣先企業から派遣会社に支払われるマージン料の高さがぐせんとしました。人材派遣会社はマージン料の中から利益を得ますが、途中で経費がかさむなどして、現場で汗を流す派遣社員さんの手元に残る給与は大変少なくなりました。私はその「慣例」に疑問を抱き、経費削減、小規模運営、効率化を図ってマージン分を減らし、全て情報公開するエンジニアの人材派遣事業を興そうと決めました。近江商人の心得「三方よし」を目指し、派遣社員、派遣先、当社がお互いに益になる経営理念を掲げました。

大須賀 思い切った手法ですね。まさに人材派遣業界の風雲児です。

野中 派遣社員の中には、高いスキルがあるのに給与が低い方が少なくありません。給与が高ければ生活も潤い、仕事への意欲も高まります。それならば、当社の利益を少し削ってでも彼らに上乘せよう。

目先だけ見れば減益になると思うでしょうが、実はその逆で、業績は好調です。当社の派遣社員たちから口コミが広がり、ネットやSNSで話題となって優秀な人材が集まるようになりました。大手転職口コミサイトに掲載された人材サービス業界の待遇面の満足度ランキングで、当社は約4500社中、第1位の評価をいただきました。おかげで求人広告費をかけずとも登録者が増加し、派遣先企業も増えていきます。販促管理費も抑えられ、ますます派遣社員に利益を還元できる好循環になっています。



東京芸術大学の学生らが集う「日暮里作業場」の様子(リツアンSTC提供)

点から線へ さらに大きな網に

大須賀 派遣社員を正當に評価して報酬を還元する。理想の働き方と拝察します。さらに御社では社会的事業も行っていますね。

野中 私は若い人のエネルギーをくすぶらせてはいけないと思っています。彼らは柔軟で豊かな感性と才能、「三方よし」の精神にも素直に共感してくれま。そこで当社の東京オフィスでは、東京大学駒場キャンパス近くに学びのフリースペース「KOMAD(コマド)」を、東京芸術大学近くには制作が行える「日暮里作業場」を開設しました。

これらの「場」では我々はリクルーティング活動などは一切行わず、若い人たちの活躍を眺めて、むしろ刺激をもらっているような状況です。これらの「場」は、それぞれ独立した「点」ですが、最近「点」と「点」が線で結ばれつつあります。先日も奄美大島で、町民も参加した、障がいや人権教育の勉強会を行いました。障がい者が活躍しました。「線」がさらに張り巡らされ、社会に役立つ大きな「網」になればと願っています。

大須賀 これらの取り組みにはどんな

大須賀 学生の中で掛川に移住したいという方はいますか。

野中 まだそこまでは至っておりません。ですが今、掛川の中・高校生に、SNS(会員制交流サイト)を使用したレクチャー「掛川教育フェス」の開催を企画しています。SNSでは読んだ人が「いいね!」と高評価をつける機能があります。また、その投稿者に興味を持つ「フォロワー」を増やすこともできます。そこで、フォロワーを多く持つ方を講師に招き、魅力的なSNSの作り方を彼らに教えるのです。そこで彼らが掛川の魅力を発信していけば、地域のPRにつながるはずです。

大須賀 誰もが情報発信者になれる、現代ならではの取り組みですね。

野中 このほか、ペトフードの開発も考えています。私は飲食店に行く中で、だしを取ったかつお節が毎日大量に

垣根のない フィールドで

な期待がありますか。

野中 コロナ禍前は、学生たちをよく掛川に呼んでいました。毎月何十人と東京から来て、皆でお酒を飲み交わし談話するのです。実は彼らの大半は首都圏出身で「地方」がどんなものか想像できていません。ですから彼らが掛川に来ることで、この地が地方のモデルになるわけです。やがて彼らが社会に出て、地域創生やまちづくりを考えるようになった時、まず掛川のことを思い出してくれるだろうと。それが結果的に地方、ひいては掛川の活性化になるはず。長期展望の種まきですが、学生たちが掛川に毎年来れば、膨大な人数の蓄積になります。当社だけで地域創生を意気込むよりも、彼らの中に「第二の故郷・掛川」を埋め込むほうがもっと前進できる。当社はそれを期待しています。

大須賀 人材派遣事業から若者の学びの場の提供、障がい者雇用、そして食品ロス解消と、野中社長の活動は広がりを続けています。今後の御社のビジョンを教えてください。

野中 これからは、ビジネスの世界に垣根がなくなっていく気がします。経営者は多角的に事業を展開でき、働く側も「縛り」が緩くなり、リモートワークや副業が可能になってきました。異業種の人たちが集まって、それぞれの得意分野やスキルを生かしていく。メンバーが増殖、自由に移動するように、垣根のないフィールドで企業、若い人たち、起業家たちが「三方よし」ならぬ「全方向よし」で潤ってほしい。そんな自由な世界で、当社は縁の下の力持ちに徹したいと考えています。



KOMADの学生たちが開催するゼミの様子(リツアンSTC提供)

株式会社リツアンSTC



掛川の「駄菓子屋横山さんち」の店内の様子(リツアンSTC提供)

機械、電気電子、ソフトウェアのエンジニア派遣、開発委託などを行う。ナショナルクライアント含む、輸送機器メーカー、IT企業などに社員を配属している。掛川に本社を置き、静岡、東京、横浜、名古屋、大阪にオフィスを展開する。派遣単価を開示して低マージン率の導入を目指す経営方針で、従業員数は709人(2022年4月現在)。

派遣事業のほか、東京大学の学生が集まる「KOMAD」、東京芸術大学の学生が集まる「日暮里作業場」など学生がアイデアを発揮する場所の提供や、障がい者雇用、福祉教育の一環で掛川市に立ち上げた車いす利用者が店長の「駄菓子屋横山さんち」を運営している。